

修身初訓

一

T1A1

22

(MI77)

宮本茂任先生
合著
宗盛年先生

版權所有

修身初訓

明治十五年
五月刻成
連璧社藏

修身初訓卷之一

緒言

此卷ヲ初等第二年前期ニ
學フ所トス首章ニ立教ニ
章ニ幼儀三章ニ衣服四章
ニ飲食五章ニ孝友六章ニ

接物七章ニ學問ヲ以テ終
ル是修身ノ初步タリ輕忽
ニス可ラス

編者誌

修身初訓卷之一

宮本茂任編輯
宗盛年校閱

首章

○天祖穀を植ゑ給ひて飲

仙真神言 卷之一 通鑑書格

食の基興る 本千古事記

飲食ら必慎節 張思叔座右銘

○天祖蠶を採り給ひて衣

服の業起る 本千古事記

衣帶ハ必飭へよ 管子

○天祖新嘗を行ひ給ひて

孝敬の道立つ 本千古事記

人の子と爲てハ孝ふや

はる 大學

人の臣と爲てハ敬ふと

ある 同上

○其本を思ひ其恩を酬也

孝弟の四行 卷之一 通鑑書格

る者ハ臣
子とて
志を立つ
る第一義
なり

告志篇



第二章

○凡そ子弟早ふ起き晏く
眠るを要ハ

童蒙須知

○孔子曰く善を見てハ及
ハざるヲ如くす

○惡を見てハ農夫の務て

艸を去るゝ如く左傳

○言ハ必信よすべし苟且
あも詐る魚から大和俗訓

○行歩趨踰ハ端正よす
疾走跳躑を可ら童子蒙須知

○凡そ喧闘争の處近く

づから同上

○小兒の遊ひ道み害なまき
おやへ難し唯後み捨ら
さる遊ひを任せかたし童子訓

○凡そ奇險み近くべか
らば童子蒙須知

○猫犬な
と苦むる
を、不仁を
長び、家道訓
○凡そ火
ふ向を、



迫り近くなかれ、唯舉止佳
らざるのみあらば、あつ衣
服を焚藝あるを防く、童蒙須知
○凡そ道路みて長者小遇
る、必正立して手を拱し、
疾趨して揖せよ、同上

○凡そ夜臥するに必枕を用
ゐ、寝衣を以て首を覆ふな
かれ、同上

第三章

孔子、紅紫を以て褻服とせ
ば、論語

○大志を、紅紫なや、冶容な
るを著るべからば、童子訓

○衣服の模様みて、人の心
を推料らるゝ者なり、心を
用ゐよ、同上

○凡そ衣服を著るに、必

先づ衿領を提整し、兩袵紐

帶を結べ、童蒙須知

○飲食あるふ照管して汚

壊せしむるなかれ、同上

○路を行くふ看顧して泥

ふ漬けしむるなかき、同上

○凡そ日中著る所の衣服

夜卧るふ必更むれハ蚤虱

を藏さば即敝壊せむ、同上

○晏子一狐裘三十年意儉

を以て俗を化あるふ在り

と雖亦其愛惜道あるなり

同上

第四章

孟子曰く、飲食の人々、則人
之を賤む、

○飯を搏とむなから、放飯す
るなかれ、流ながるる魚肉を反かへりなかれ、

曲礼

○啗く食をなから、骨を齧か
むなから、魚肉を反かへりなかれ、
れ、狗いぬの骨を授たまへるなかれ、
獲とるを固かたくするなかれ、同上

○凡飲食、あれハ則之を食

一 無れハ則思索あべから
ば但粥飯を飢ゝ充てて闕
くべからば、童蒙須知

○ 凡そ飲食の物多少美惡
を争ひ較ぶなからば、同上

○ 酒を狂藥ふて佳味は

非を能謹厚の性を移して化

して凶險の類となに、范質詩

○ 酒を好む人も必血氣を

破り脾胃を傷ふ、童子訓

○ 生きつきて酒を好むと

も、己かき時より慎て多く

飲むべからず、同上

第五章

孔子曰く、夫孝、徳の本
と

○父母に對しては、色を和
け、氣を下し、温和を主とす

て事ふべし、家道訓

○父命して呼べば、唯して
諾せず、手小業を執るば、則
之を投じ、食口み阿れば、則
之を吐く、禮記

○凡そ人の子たる、禮を温

ふして夏を清く、昏は定めて晨を省る、曲禮

○出れハ必告け、反れハ必

面ハ、同上

○父母小事ふるハ、愛敬二の心法阿王、初學訓

○愛のこめて敬をけれど、

犬馬を養ふる同上、同上

○敬すまて愛まくなけれど

を父母の心樂まべ、同上

○兄弟も同胞の親父母も

つぎたる天倫なり、初學訓

○斯千の詩に云く、兄及ひ
弟式相好し、相猶するあか
れ、

○兄も弟も愛ふかく、弟惡
くとも似せて愛を薄くす
べからば、
初學訓

○弟ハ兄
も敬あつ
く兄惡く
やも似せ
て不敬あ
るべから



に、同上

○父兄長上、教督ある所あらざる、但首を低れ聴^受愛すべし、妄小自議論あるべからず、童蒙須知

第六章

孟子曰く、仁者、人を愛す、禮ある者、人を敬ふ、○又曰く、人を愛す者、人恒之を愛し、人を敬ふ者、人恒之を敬ふ、○凡そ愛敬を行ふに、信

を本とすべし、大和俗訓

○信とて愛敬を行ふ心、眞實ありて偽なきあり、同上

○満ち損を招き、謙の益を

受く、易書終

○人道を盈るを惡て、謙る

を好む、同上

○已を持つゝ、一敬字を得、物に接するゝ、一謙字を得、敬以て已を持ち、謙以て人に接せば、以て過なかるべし、

薛文清

孔子曰く已ふ如ふざる
 者を友とするなかれ
 ○善人を見て之を效ひ不
 善人を見て之を改む善と
 不善と皆吾師なり傳家宝
 ○凡衆坐ふハ必身を歛め

廣く坐
 席を占る
 なかれ童蒙須知
 ○人と毀
 せハ人亦
 我を謗る



修身初言 卷之一 道學言

天よ向ひて唾くゝ如大和俗訓

第七章

○宇多帝のたまりく治を
有識ふ訪ひ道を六経も
とめよ御遺誠

○玉琢されハ器と成らず人

學をされバ道を知ら記ズ

○凡そ學の道師を嚴みす
るを難とハ師嚴みて道
尊同上

○凡そ人三の好ありて輕
重何王富貴を好むより長

修身初言 卷之一 道學言 十六

生を好む、長生を好むより
義理を好む、初學訓

○書を讀めば、古の聖賢の
面り其教へを聞くが如く、
同上

○凡そ書を讀むハ机按を

整頓し、潔淨端正ならむ
べし、童蒙須知

○書冊を將て整齊頓放し、
身體を正うし、書冊の對し、
詳緩の字を看て、子細分明
の之を讀め、同上

○凡そ書冊を愛護を要すべし、損汚縐摺すべからず、同上

○濟陽江祿書を讀み未だ竟らざるを急速阿里と雖、必掩束整齊を待て、然て後

起つ

○凡そ文字を言を寫して言語に代へ用ゐ、行事を示し、當世に施し、後代に傳る證迹なり、童子訓

○文字を只平正にして讀

み易きを宗と_レ、_{同上}

○凡そ文字を寫すは、高く
墨錠を取_レ、端正研磨し、墨
汁は手を汚さ_レ、志むるなか
れ、_{童蒙須知}

○凡そ字を寫さば、寫し得

て工拙如何を問_レ、且一筆
一畫、嚴正分明を要せよ、老
艸すべから_レ、_{同上}

○凡そ文字を寫さば、子細
ふ本を看て、差誤あるべから
ず、_{同上}

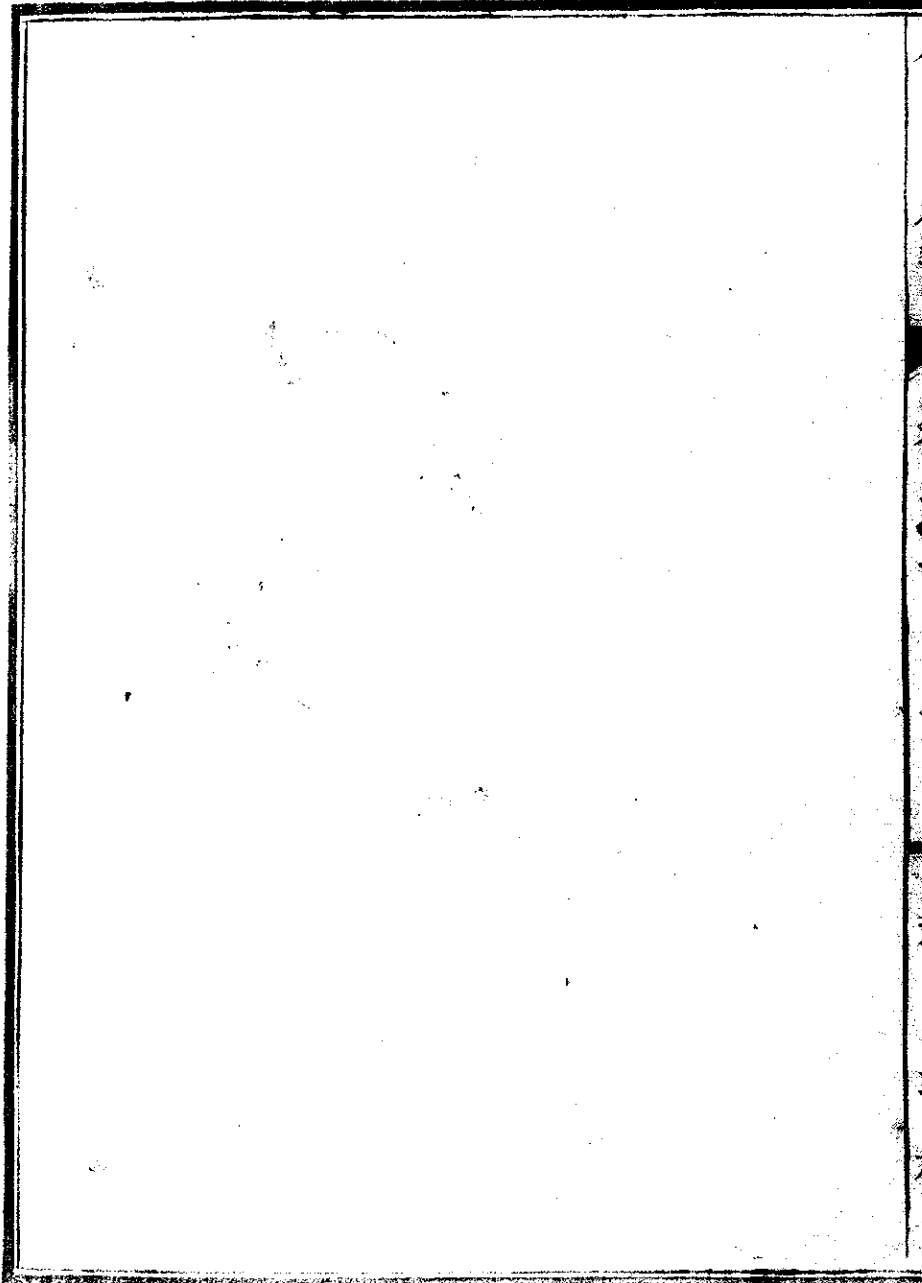
○管丞相
十一歳の
詩は月耀
如晴雪梅
花似照星
と作きり



勤學の力想ふべし

修身初訓卷一終

仙身有言 卷之二 文庫書林



明治十五年三月廿四日版權免許
同年五月刻成

編輯人 福岡縣士族 宮本茂任

福岡縣福岡區東小姓町大番地

同 縣士族 宗盛年

同縣同區地行八番町
二千五百番地

出版所 連壁製本會社

同縣同區下名島町
十五番地

仙身有言 卷之二 文庫書林 連壁製本會社